

気づきと学びの 8 月

谷野則文

「伝える」ことで、自分たちの保育を見つめ直す

8月の猛暑の中、園の子どもたちは、テラスで水に触れてその感触を楽しんだり、プールで友達とダイナミックに遊んだり、保育園ならではの夏の時間を満喫していました。

一方、職員たちも夏の暑さに負けず、学びを深めようと奮闘しました。兵庫で開催された「第58回全国保育団体合同研究集会」には多くの職員が参加し、研修を重ねてきました（※職員の感想は後続ページに掲載）。自園の保育の取り組みを外部に伝えるという作業は、とても頭をひねります。客観的な文章にするため何度も書き直し、「アトム」と「つばさ」の報告では、うまくいかなかったことも含め、ありのままを伝えようと試みました。全国の保育仲間と悩みを共有し、語り合うことが、また一歩前に進むきっかけになると信じているからです。

ところが、いざ準備を始めると、「自分は何を大事にし、子どもたちや仲間とちゃんと向き合ってきたのか」と、自分の心をごまかさずに見つめ直す作業が、大きなハードルとして立ちはだかります。普段の生活の中では、うまくいかないことがあっても、多忙な仕事や生活に追われるほど、立ち止まって考える余裕がなくなってしまいます。だからこそ、研修や仲間との対話を通して、自分自身に問い直す時間は、とても大切なのだと思います。

「原風景」を語ることから見えてくるもの

そして、この「自分を見つめ直す」という作業は、保護者の方が目の前の子育てで奮闘することとも、深くつながっているのではないかと感じます。

今月のパンダ組の懇談会では、「原風景を語る」をテーマに話し合われました（※保護者の感想もぜひご覧ください）。皆さんの感想を読ませていただき、自分自身の原風景や原体験を見つめ直すことは、「子どもにどんなふうに育ってほしいのか」「子育てに何を願うのか」という、親としての思いの根っこにつながっていくのだろとう感じました。

そこで私自身も、園長として今、困難に直面したときに判断がブレそうになる自分を振り返り、「自分は何を目指し、何を願っているのか」「なぜ子どもに関わる仕事をしたいと思ったのか」と、自分の原点を見つめ直してみました。

私の原点にあったもの

幼い頃、親戚の集まりや子ども会などで年下の子と遊んでいると、周りの大人たちがとても喜んでくれました。私はただ楽しくて遊んでいただけなのですが、大人にとっては、その時間が用事を済ませたり、ホッと一息ついたりできる時間になっていたのです。

「自分が動くことで、自然と周りが居心地よく過ごせる」。子どもの相手は大変なこともあるかもしれませんが、でも、私にとっては全く苦にならず、それだけでとても満たされていました。

また、私の家族は、2世帯同居の大家族でした。義母からの感情的な苦言に悔しさを押し殺す母や、無関心を装う父。子どもながらに、大人たちの表情をうかがっていました。その理不尽さに我慢でき

ず、「そんなに言わんでもいいじゃんか！」と言葉を投げ返し、結果的に母から「わきまえなさい！」と怒られたことも覚えています。目の前の理不尽に、後先を考えず心が動き、行動してしまう。もちろん、失敗もする。それが昔からの私でした。

「居心地のよい場所」をつくりたい

振り返ってみると、「自分が動けば、自然と周りが居心地よく過ごせる」という満たされた思いは、今の私の原点になっています。

子どもだけでなく、保護者も職員も、ここに関わるすべての人にとって、居心地のよい場所をつくりたい。それが、今の私が園長として願っていることにつながっています。

一方で、相手の表情や感情を気にするあまり、冷静な判断が難しくなり、つい後先を考えずに行動してしまうこともあります。相手の感情に揺れ動いてしまう自分の根っこも、もしかすると、ここにあるのかもしれない。今回、自分の原点を見つめ直す中で、そんなことにも気づかされました。

仲間と語り合うことで、自分が見えてくる

今回、研修で発表する職員たちも、「自分は何を伝えたいのか」と問いながら、ときには涙を流し、職員仲間と何度も対話を重ね、言葉にすることに苦しみました。

自分を見つめ直す作業は、一人ではなかなか難しいものです。同じ時代を生きる仲間と時間を共にし、悩み、語り合う。その中で、自分でも気づかなかった思いや、自分が大切にしてきたものが少しずつ見えてくるのだと思います。だからこそ、クラス懇談会でも度々その話題で、語り合うのです。

そして、自分は何を大切にしたいのかを知り、迷いや弱さも含めて自分自身を受け止めること。それが、困難に直面したときにも自分を見失わずに歩いていくための、「自分を大切にする力」につながるのではないのでしょうか。

こうした「自分自身への問いかけ」は、全国の保育仲間ともきっと共有できるものだと思います。だからこそ、私たち職員どうしだけでなく、保護者とも「共同の子育て仲間」として関係を築いていきたい。そして、保護者同士もまた、子どもたちを真ん中にして、ともに悩み、支え合える仲間であってほしいと願います。

この夏、職員一人ひとりが感じ、考え、語り合った「気づきと学び」を、これからの保育の糧にしていきたいと思います。

第 58 回 全国保育団体合同研究集会 神戸ワールド記念ホール 28 日の様子



参加者数：会場約 4,550 人、総数約 9,230 人が全国から集まりました